

行政視察報告書

1. 委員会または会派等 まちづくり・活性化特別委員会
2. 視察期間 平成30年10月 4 日から平成30年10月 5 日までの 2 日間
3. 視察先 高志の国 文学館 富山県富山市
4. 視察項目 (高志の国 文学館) 高志の国文学館の運営について (富山県富山市) 選ばれるまちづくり事業について
5. 参加者 〔委員（議員）〕 三宅 智加子、田中 正繁、中原 誠悟、森 竜子、 大野 哲也、平山 光子、森田 義孝、高口 講治、島野 知洋、 城後 徳太郎 〔随員〕 戸上 和弘
6. 考察 別紙のとおり
以上のとおり、報告いたします。 平成30年11月 2 日 報 告 者 三宅 智加子 大牟田市議会議長 殿

【別紙】

1. 高志の国 文学館

【視察事項】高志の国文学館の運営について

富山県は、万葉歌人・大伴家持が223首もの歌を詠んだ越中万葉ゆかりの地で堀田善衛や源氏鶏太、角川源義といった作家を輩出しているほか、富山を舞台にした文芸作品が多数存在している。映画では滝田洋二郎や元木克英、細田守を輩出し、漫画では藤子不二雄^①、藤子・F・不二雄らを生んでいる。

【施設概要】

高志の国文学館は、これらの富山県ゆかりの作家や作品の魅力を幅広く発信し、誰もが気軽に「ふるさと文芸」に親しみ、学ぶことができるとともに、新たな創作への刺激ともなる場として開館された。

富山駅から約1km（徒歩15分）に場所にあり年間約10万人の来館者があり、開館から延べ74万人（74カ月）が来館している。

場 所 : 富山市舟橋南町
建築面積 : 2, 738 m²
延床面積 : 3, 070 m²
敷地面積 : 13, 752 m²
総工費 : 1, 947, 135 千円
開 館 : 平成24年7月6日
開館時間 : 9:30～18:00
※研修室・レストランは21:00まで
休 館 日 : 火曜日（祝日を除く）
展示室観覧料 : 常設展一般200円（団体160円）
※大学生以下、70歳以上無料

高志の国文学館の特徴は、旧知事公館の建物や緑豊かな庭園をできるだけ活用し、緑に囲まれた静かで落ち着いた佇まいを創出し、外観、高さと周辺の閑静な住宅街と調和するようデザインされている。建材には富山のアルミを多く使われており、「中部建築賞」、「富山建築賞」等、多数の建築賞を受賞している。

庭に面したエントランス周辺に無料開放のライブラリィやショップ、親子スペースを配置し、旧知事公館には研修室やレストラン、管理部門を配置している。

親子スペースには多数の絵本が備えられていて、小さな子供を連れた家族に好評である。

展示内容は富山県の自然と風土の中で育まれた数々の文学作品を中心に、ゆかりの漫画家や越中の先人等を展示している。

研修室は6室あり、最大で72名収容できる研修室も備えており、文化サークルの活動の拠点として利用されている。

高志の国文学館は県の施設で、県の文化振興財団が指定管理で管理運営を行っており、施設内のレストランについては、民間で運営がされており、文学館の開館時間終了後も営業が行われている。

【所感】

- ・旧知事公館の庭の雰囲気が大変よく、視察時に子供が楽しそうに遊んでいたのが大変印象的で、いわゆる「文学館」という固そうなイメージとは違って気軽に訪れることができそうな施設になっているなど感じた。企画展やイベントなど、さまざまな人を呼び込む仕掛けが行われており、やはりこういった施設は、つくってからがスタートで、どうやって人を呼び込むかが大事だと感じた。
- ・旧県知事の公邸を活用した建物は庭園の雰囲気もあわせ、歴史の重みと自然を生かしたつくりとなっており、既存施設の改修や活用など今後の課題の一つである本市にとって、既存施設の利活用方法として参考となった。
- ・展示内容は万葉集から現代の漫画まで幅広いジャンルだったが、郷土にゆかりのある人物（作家）という共通点があり、歴史の流れもあわせて紹介されており、違和感はなかった。逆に展示内容が豊富で、見ていて飽きなかった。
- ・特別展も映画や漫画などさまざまなテーマで開催されており、無料で入場できる親子スペースやエントランスには郷土ゆかりの小説や漫画、絵本などがたくさんあり、小さな子供から高齢者まで幅広い年齢層が楽しめる内容となっていた。
- ・敷地が広いということもあるが、いつでも気軽に立ち寄ることができる無料スペースと特別展などの有料スペースを設けることは、施設のあり方として一つ方法として参考になった。
- ・全体的に落ち着いた雰囲気、デザインにも随所にこだわりが感じられ、緑の庭園とのバランスもよく、調和のとれた空間が大切であると感じた。大牟田市の絵本ギャラリーも緑の中にあるという発想があるので大変参考になった。
- ・展示物を定期的に入れかえたり、企画展を開催したりと、リピーターが訪れるような工夫をされているのが参考になった。展示館は、最初は人が訪れるが、時間が経つと入場者が減少することが多いため、今後の絵本ギャラリーの運営に生かせるのではないかと感じた。
- ・広々とした立派な施設だが、建物と庭が和の雰囲気で統一されていることで、豪華過ぎず落ち着きがあり、居心地がよかった。
- ・富山県ゆかりの万葉歌人大伴家持をはじめとして、地元輩出の作家・漫画家作品や富山を舞台とした作品に親しみ、学ぶことができる施設となっており、市民にとってシビックプライドを醸成する場ともなっている。この地域の長い歴史や文化の香り高さを感じた。
- ・高志の国文学館は、平成24年7月6日に開館され、6年2カ月で74万人が来館されていた。

建物の特徴は、『旧知事公館の緑豊かな庭園を活用し、緑に囲まれた静かで落ち着いたたたずまいの創出』や『庭に面したエントランス周辺に無料開放のライブ

ラリィやショップ、親子スペースの配置』と『旧知事公館に研修室、レストラン、管理部門を配置』などとのことだった。

また、常設展示とさまざまなジャンルの企画展を年4～5回開催され、来館者を飽きさせない創意工夫と展示内容を図られており、県立の文学館ではあったが、いろいろなことを学ぶことができた。

大牟田市における絵本ギャラリーの設置に向けては、絵本だけではなく、文化・芸術をかみ合わせることで、誰もがゆっくり憩えるスペースの確保、無料開放のライブラリィやショップ、レストラン等の施設整備などは参考にしていく必要があると感じた。

- ・親子で訪れるに当たり高志の国文学館は、緑豊かな庭園に囲まれ、洗練された建物の中で絵本を読み、散歩をし、休憩することができるのは素晴らしい施設だと思う。
- ・展示作品は富山出身の文芸作家や万葉集についてのものが主であるが、地元出身の漫画家やアニメ作品もとり上げられており、若者をターゲットとした施設としての見せ方は参考になった。

2. 富山県富山市

【視察事項】 選ばれるまちづくり事業について

【人口】 418,686人 【面積】 1,241.77 k m²

① シティプロモーション認定事業について

《全国への情報発信》

富山市では、平成21年にシティプロモーション推進計画を策定し、富山市の認知度とイメージを高めるための取り組みを総合的・戦略的に実施している。

(1) 雑誌等への展開

- ・幅広い層をターゲットとする全国規模の雑誌に【食・自然・くすり】などの魅力をテーマとした「富山市」特集を掲載。
- また、冊子の発行により、大学進学や就職などで県外に転出した若者が、Uターンを考えるきっかけをつくっている。

② シビックプライドを醸成する取り組みについて

《シビックプライドの醸成》

富山市は、市民一人一人が「わがまち」に対して、愛着や誇りを抱くシビックプライドを育む大切さを提唱している。

(1) 象徴となるモニュメント設置と関連事業を一つのパッケージとして展開

- ・シンボルマークとして二基のモニュメントを設置
- ・まちなか広告パネルで富山市の魅力をPR

- ・毎年モニュメント装飾を実施
- ・職員の名刺の裏面に「AMAZING TOYAMA」を表示

【所感】

- ・富山市は、総合的なまちづくり、福祉、芸術・文化などにおいても市民が幸せな未来を仰ぎ見ることのできる場所・まちづくりを目指している。
このような取り組みにより、市と市民が創造していくプロセスを共有し、市民同士のコミュニケーションを通じて、心に抱く富山市民としての誇り（シビックプライド）を育んでいると考える。
- ・まとめて一括りにされることも多いが、富山市では市外へ向け発信していく「シティプロモーション」と住民の誇りにつながる「シビックプライド」のすみ分けがきちんとなされており、事業展開する上でもわかりやすかった。また、ターゲットも若者、子育て世代、リッチシニア世代と分け、それぞれに応じた手法、内容で情報発信する工夫がなされていた点も参考となった。
- ・富山市出身者も含めた人材活用が素晴らしいと感じた。地域おこし隊などのほかに、それぞれの分野に適した人材をアドバイザー的な存在として「市政策参与」に任命しており約20人が活躍しているとのことだった。本市ゆかりの方もさまざまな分野で活躍されており、大牟田市のPRという役割だけでなく、まちづくりにもっと積極的に参画してもらえそうな仕組みや呼びかけが必要であると再認識した。
- ・市内での取り組みで「孫とお出かけ支援事業」は高齢者の健康づくりとお土産等を孫に買いたいという意識をうまく組み合わせた取り組みで参考になった。
- ・意識調査で、住み続けたい人が7割で、その理由が「なじみや愛着がある」というものだったが、反対に住み続けたくないと答えた人の理由も「なじみや愛着がない」ということだったことから、なじみや愛着を醸成することがポイントだということがわかり参考になった。
- ・ANAとの連携でさまざまな事業を展開されていたが、企業のノウハウを活用することは有意義であり、今後は大牟田市でも積極的に連携を模索することも必要だと感じた。
- ・事業が、市外向けの「シティプロモーション」市内向けの「シビックプライド」と体系的に整理されていると感じ、わかりやすく参考になった。
(事業費(年6,000万円～7,000万円))
- ・ターゲットを絞った、雑誌やWEBサイト、ショートアニメムービー、ツイッター等のSNSの活用、地元出身著名人を巻き込んだ取り組み(フォトプロジェクトなど)、孫とお出かけ事業(祖父母と孫同伴で公共施設入場無料)や花Tram事業(指定花屋で花束を購入して市内電車等の運賃無料)、AMAZING TOYAMAのロゴを広げるなど、興味深い事業に取り組まれていた。
- ・富山市は、『シティプロモーションによる効果⇒認知度の向上⇒来訪者の増加⇒交流人口の増加』、『シビックプライドの重要性⇒誇り・愛着の醸成⇒地域への関

わりの増大⇒定住人口の維持・増加』とされており、この二つの相乗効果として『人口の維持・増加』を図り、『選ばれるまち』を目指し、事業を推進されていた。大牟田市のシティプロモーション事業は、市制100周年を契機に始まったばかりだが、富山市は平成21年度に推進計画を策定され、シティプロモーションによる効果とシビックプライドの重要性の相乗効果で『総合力が高く、選ばれるまち』を目指されてある。富山市の取り組みや事業は参考にする点が多く、本市でも取り組む必要があると感じた。

- ・定住人口の維持・増加を図るための、シビックプライドの重要性の説明を受けた。本市においては、その醸成がこれからの課題であろう。富山市のアイデアは参考になった。